

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 16 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520231

研究課題名(和文) 『世説新語補』を事例とした近世日本の明清漢籍受容史の研究

研究課題名(英文) A study of an acceptance of Ming-Qing Chinese Classic in early modern in Japan for the case of the Shishu xinyu bu.

研究代表者

稲田 篤信 (INADA, ATSUNOBU)

二松學舎大學・文学部・教授

研究者番号：20168404

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の近世期における『世説新語補』の受容実態の解明を目的として、明清版本と和刻本について、国内外の伝本の書誌調査、当代の学者の書き入れ本の分析を行った。石島筑波をはじめとした荻生徂徠の門流は、『世説新語補』に強い関心を持って熱心な読書を行っている。これとは対照的に、大坂の懐徳堂の中井履軒は世説に批判的な態度を持っている。

研究成果の概要(英文)：In this study, I analyzed Ming-Qing Chinese Classic of Shishu xinyu bu, its Japanese reprints and marginalia notes added by the scholars of the day in early modern in Japan for the purpose to elucidate the real condition of acceptance of the Shishu xinyu bu. The academic group of Ogyu Sorai, such as Ishizima Tukuba, had been strong interest in the Shishu xinyu bu and had read avidly. In contrast to them, it is clear that Nakai Riken in The Kaitokudo, a academy located in Osaka, had been a critical attitude towards the Shishu xinyu bu.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：世説新語補 李卓吾 和刻本 徂徠学派 中井履軒

1. 研究開始当初の背景

中国南朝劉宋の劉義慶撰『世説新語』は後漢及び魏晋の名人の逸話を集めた古典として有名であるが、明代に作られた『世説新語補』は中国本土では当代の有名文人王世貞に仮託した続撰書として評価が低い。これに対して、わが国では元禄7(1694)年と安永8(1779)年の2度にわたって京都の林九兵衛から和刻本(漢籍を日本で刊刻したもの)が出され盛行した。我が国における『世説新語』(古世説)の影響については、一定の研究蓄積がある。しかし、『世説新語補』に即した研究はほとんど見られない。

2. 研究の目的

本研究の目的は近世日本の世説受容は基本的に『世説新語補』によるものであるという立場に立って、『世説新語補』の日本独自の受容史をテキストに即して考察することにある。

本研究は中国明清の間に出版された漢籍(朝鮮刻本を含む)及びわが国において刊行された上記2種の和刻本の伝本の調査研究を実施する。

漢籍の読書においては、原本の欄上や行間に校語や批釈を書き入れた批校本(以下書き入れ本)を作成することが珍しくない。『世説新語補』も例外ではなく、数種の書き入れ本が伝存する。本研究ではこれらの内、特色のある伝本を取り上げて、内容を吟味し、近世学芸史および近世文学史にかかわる特質を追求する。

3. 研究の方法

『世説新語補』は明の文人李卓吾の名を冠して「李卓吾批点世説新語補」とも称するが、和刻本の底本に想定される明版テキストについて、また、2種の和刻本について、国内外の伝本の書誌調査を行った。あわせて書き入れ本の資料収集と調査を行った。

3年間で調査研究を実施した主な所蔵機関は以下の通りである。

国内：国立公文書館・国立国会図書館・東京都立中央図書館・東京大学東洋文化研究所・法政大学多摩図書館(以上東京都)・関西大学図書館・大阪府立中之島図書館・大阪大学附属図書館(以上大阪府)。

海外：中国国家図書館古籍館(北京市)・国立台湾大学中央図書館・台湾国家図書館・故宮博物院図書文献館(以上台北市)。

4. 研究成果

明版『世説新語補』の諸本の内、特色ある伝本は以下のようなものである。

東京大学東洋文化研究所蔵本は関西大学図書館増田涉文庫蔵本的那波魯堂書き入れ本が見返しに書き付けられた「書林余圯孺梓」の封面を持つ。

台湾大学中央図書館には明版焦竑序刻本、明版王潭等校訂本が所蔵される。

法政大学多摩図書館本は田安宗武の田藩文庫旧蔵本である。

和刻本の底本となった明版は、現在の所、不明とするしかないが、国立公文書館蔵の一本(子190-2)の系統の本である可能性がある。

和刻本の諸本の内、後述書き入れ本のほかで、特色ある伝本は以下の通りである。

台湾国家図書館蔵本は石田治兵衛刊本で、安永版の後刷り本と推定される。

和刻本『世説新語補』の刊本は元禄版・安永校正改刻版の2種であるが、板元から見た場合、林九兵衛版2種、石田治兵衛、観濤閣蔵版、林権兵衛・松村九兵衛・前川六左衛門3肆版、無刊記版の6種に整理される。

書き入れ本の特色ある伝本は以下の通りである。

関西大学図書館増田涉文庫蔵本(那波魯堂)・東京都中央図書館特別買上文庫本(石島筑波)・研究代表者架蔵本(秋山玉山・服

部南郭・太宰春台・千葉芸閣)、大阪大学附属図書館懐徳堂文庫蔵本(中井履軒)・故宮博物院図書文献館(楊守敬旧蔵本・平賀中南説)・国立公文書館(清版2種。尾藤二洲か)。

「和刻本『世説新語補』の書入三種」(「日本漢文学研究」8号)において、以上の伝本調査の成果と那波魯堂、石島筑波、秋山玉山、服部南郭、太宰春台、千葉芸閣らによる3種の書き入れ本を紹介して、以下のような特質を略述した。

『世説新語補』に関心を寄せた人々は、荻生徂徠の門流(護園派)の人々が多い。石島筑波の書き入れ本(東京都立中央図書館蔵本)を見ると、熱心な読書の跡が確認できる。筑波は規矩にとらわれない奔放な人柄が伝えられる人物である。

また、服部南郭、太宰春台ら徂徠門の重鎮が関心を寄せている一本があり(架蔵本)徂徠門では古世説とともに『世説新語補』も尊重されていたことが判明する。

安永版校正改刻本の伝本の内、観濤閣蔵版は磐城守山藩主松平頼寛が諸本を蒐集して、みずから校本を作り、これに戸崎允明が校訂を施したものである。允明は李卓吾批点本以外にも広く諸本を参考にして修訂を施している。

また、「中井履軒『世説新語補』雕題本考」(「日本漢文学研究」9号)において、大阪大学附属図書館懐徳堂文庫の中井履軒雕題本を取り上げて考察した。

本書は大坂の懐徳堂主の履軒が本文に詳細な書き込みを行っているいわゆる雕題本のシリーズの一本であるが、同書には世説人物に辛辣な意見が書き付けられている。石島筑波ら荻生徂徠の門流の人々の傾倒ぶりとは対照的であり、江戸と大坂の漢学者が世説観において際だった対比を示していることは、江戸学芸史上の観点から興味深い。

和刻本諸本および楊守敬旧蔵本については、前記2誌に反映できなかったが、後者については「科研費 NEWS」(2013年度VOL.4)に簡単な報告を行った。中南説は『世説新語補索解』所収の注釈である。書き入れた人物は不明。

『世説新語補』関連書および上方の出版書肆に関連して、穂積以貫『世説新語補国字解』、岡井孝先序『世説逸』、皆川淇園『世説啓微』、河内屋吉兵衛刊『唐土名勝図会』などの調査と資料収集を行った。

辛辣な同時代人物評で知られる上田秋成『胆大小心録』なども崎人伝風のエピソードという意味で世説と同質のものがある。この立場から秋成について『胆大小心録』にふれながら、「江戸の学芸と明清漢籍—松斎・庭鐘・秋成の場合—」(「台大日本文学研究」22)と「秋成のつづら箱—狂蕩と安分—」(「人文学報」462)の2本の論文を公表した。後者において中井履軒の儒学者の怪異観についてもふれている。

「村井古巖」(「二松學舎大学人文論叢」92)は、近世中期の蔵書家の交遊を素描したものである。

また、「漢意のさかしら—一本居宣長の見た17世紀古典学—」は、「東アジアにおける漢学—17世紀の東アジア社会と漢学の諸問題」と題して行われたシンポジウムの報告である。他の講演者・報告者は、金文京(京都大学人文科学研究所)、林暎美(国際日本文化研究センター)、鍋島亜朱華(台湾清華大学)、王宝平(浙江工商大学)の各氏。報告は山崎闇齋の神代記解釈にかかわる問題をあつかっている。

以上の秋成、古巖、闇齋、宣長の場合も日本人の名分秩序構築の模索の例として、『世説新語補』を求めた17・18世紀の精神風土と無関係ではないと考えている。

稲田篤信、江戸の学芸と明清漢籍—松
齋・庭鐘・秋成の場合—、台大日本語文
研究、査読あり、22号、2011年、pp.27-42

稲田篤信、秋成のつづら箱—狂蕩と安
分—、人文学報、査読なし、462号、2012
年、pp.61-77、

稲田篤信、和刻本『世説新語補』書入
三種、日本漢文学研究、査読あり、8号、
2013年、 pp.1-17

稲田篤信、中井履軒『世説新語補』雕
題本考、日本漢文学研究、査読あり、9号、
2014年、pp.149-167

稲田篤信、村井古庵、二松學舎大学人
文論叢、査読なし、92輯、2014年、
pp.198-199

稲田篤信、和刻本『世説新語補』の研
究、科研費 NEWS、査読なし、2013年度
VOL.4、 2014年、pp.4-4

〔学会発表〕(計 2件)

稲田篤信、江戸の学芸と明清漢籍—松
齋・庭鐘・秋成の場合—、2011年台大日本
語文創新國際學術討論会、2011年11月4
日、台湾大学

稲田篤信、漢意のさかしら—一本居宣長
の見た17世紀古典学—、平成25年度二松
学舎大学文学部シンポジウム、2013年11
月30日、二松学舎大学

〔図書〕(計 0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二松學舎大学・文学部・教授

稲田篤信 (INADA ATSUNOBU)

研究者番号：20168404